

## 1. 第61回日本病理学会秋期特別総会 開催報告

会長 (公財) がん研究会がん研究所 部長 (病理部)

石川 雄一

東京大学医学系研究科 教授 (分子病理学)

宮園 浩平

第61回日本病理学会秋期特別総会を、2015年11月5～6日に、東京で開催した。本年は、山極勝三郎博士が世界に先駆けて人工癌(タール癌)作製に成功して100年目という特別な年に当たる。そこで、山極先生とゆかりの深いがん研究会がん研究所と東京大学分子病理学教室の共同開催とし、会場を東大の安田講堂とした。

シンポジウムでは、山極先生の業績を振り返ると共に、100年後の現在、発がんへの新たな視点を見出す「発癌の病理学からゲノム病理学へ—山極勝三郎の業績を将来に生かす」、および「病理診業務におけるコンパニオン診断」を開催した。山極先生が作り出したタールによる皮膚癌が展示されている、東京大学医学部標本室の見学ツアーも行い、好評であった。

特別講演として、がん研究会がん研究所名誉所長の北川知行博士が「山極勝三郎の業績」について、ノーベル財団理事長のCarl-Henrik Heldin博士が「Mission and vision of the Nobel Prize」について、それぞれ話された。本年は日本から、ノーベル医学生理学賞を大村智博士、同物理学賞を梶田隆章博士がそれぞれ受賞したこともあり、感慨の深いものとなった。

A演説(学術奨励賞)8題、B演説3題も、例年通り行われ、優れた研究が多く発表された。秋の総会のハイライト「病理診断シリーズ」では、白石泰三先生の「前立腺針生検の病理診断」、手島伸一先生の「卵巣腫瘍の病理—21世紀に入って変貌した疾患概念」が行われ、1,200人の会場は、ほとんど満員であった。

また、ポスターセッションは、通常の研究発表・症例報告44題のほかに、International Sessionとして、国際病理アカデミー(IAP)の協力も得て招聘された、中国、台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、ミャンマーからの8人が発表した。

コンパニオンミーティングも5つ行われ、そのひとつである肺病理学会のミーティングでは、イギリス、オランダ、台湾からの研究者も参加して、午後9時近くまで、活発な議論が行われた。

抄録の英語化も進捗し、全演題のタイトルと発表者、特

別講演、A演説の抄録も英文で掲載された。今後も国際化は一層進展していくと考えられる。

## 2. 乳癌HER2病理診断ガイドラインが公開されました。

乳癌HER2ガイドライン委員会策定の標記ガイドラインが、公開となりました。学会ホームページから閲覧可能です。先に公開された「胃癌HER2病理診断ガイドライン」とあわせてご活用下さい。

参照HP

[http://pathology.or.jp/side/pdf/breastcancerHER2\\_151208.pdf](http://pathology.or.jp/side/pdf/breastcancerHER2_151208.pdf)

学会HP>病理業務関連情報>

## 3. 「国民のためのよりよい病理診断に向けた行動指針2015」一部改定

標記行動指針について、本文4ページに以下の「(注)」が追記されました。

注:「病理専門医」が「病理検査報告書」を発行しても、

それは「病理診断」をしたことにならない

全体は以下の学会HPをご参照下さい。

参照HP

[http://pathology.or.jp/news/pdf/guideline\\_2015\\_ver8.pdf](http://pathology.or.jp/news/pdf/guideline_2015_ver8.pdf)

学会HP>病理業務関連情報>

## 4. 雑誌“Pathology International”の投稿料が無料になりました。

12月1日より、Pathology International誌の投稿料が無料になりました。

会員の皆様にとって、益々有益な情報発信の媒体となるよう、編集活動に今後とも取り組んでまいります。皆様からの多数の投稿をお願いいたします。本誌の閲覧・投稿については、本学会ホームページ「刊行物」より「Pathology International」をご参照下さい。

<http://pathology.or.jp/kankoubutu/jour-pin.html>

## 5. 平成27年度認定施設、登録施設(第38回)審査について

認定施設、登録施設としての新規の申請は、それぞれ6件、40件でした。審査の結果、認定施設、登録施設とも

にすべてが承認されました。認定及び登録期間は、それぞれ平成 27 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までです。

尚、専門医制度移行期につき、今後研修施設制度も変更となる見通しです。その節は改めてお知らせ申し上げます。

(1) 認定施設

認定番号	病院名
3074	千葉県こども病院
4010	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院
5043	市立岸和田市民病院
5094	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院
6023	鳥根県立中央病院
6054	市立宇和島病院

(2) 登録施設

登録番号	病院名
1042	旭川赤十字病院
1043	砂川市立病院
1044	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院
1045	国立病院機構 函館病院
1046	医療法人北晨会 恵み野病院
2019	岩手県立胆沢病院
2041	岩手県立中部病院
2042	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院
2043	山形県立河北病院
2044	山形市立病院済生館
3124	なめがた地域総合病院
3142	友愛記念病院
3143	群馬県立がんセンター
3144	前橋協立病院
3145	独立行政法人国立病院機構 埼玉病院
3146	独立行政法人国立病院機構 西埼玉中央病院
3147	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院
3148	板橋区医師会病院
3149	東京都立松沢病院
3150	厚木市立病院
4133	長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院佐久医療センター
4134	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
4135	福井総合病院
4136	愛知県がんセンター中央病院
4137	蒲郡市民病院
4138	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
4139	独立行政法人地域医療機能推進機構四日市羽津医療センター
5128	三菱京都病院
5129	医療法人仙養会 北摂津総合病院
5130	国家公務員共済組合連合会枚方公済病院
5131	製鉄記念広畑病院
6014	高松市民病院
6024	鳥取市立病院
6036	福山市医師会健康支援センター
6077	松江市立病院
7052	南部徳洲会病院

7097	大分県厚生連 鶴見病院
7098	沖縄県立宮古病院
7099	沖縄赤十字病院
7901	久留米大学医療センター

6. 一般社団法人日本病理学会役員選挙の実施について

選挙管理委員長 森永正二郎

このたび、平成 28 / 29 年度役員（理事・監事）選挙につき公示いたしました結果、選出区分 2-全国区選出理事において下記のとおり定員を超えて立候補者がありましたので投票を行います。選挙人である学術評議員には 12 月 11 日付にて投票書類を送付いたしましたのでご高配、よろしく願いいたします。投票期限は 12 月 25 日（金）（当日消印有効）です。

また、地方区選出理事 8 名、口腔病理部会長兼全国区選出理事 1 名、監事 2 名は、それぞれの立候補者が定員内であり、下記の立候補者が無投票当選となりましたのでご報告申し上げます。

各候補者の所信表明は学会ホームページに掲載しておりますので、ご参照下さい。

<http://pathology.or.jp/news/whats/election151210-01.html>

なお、今回の選挙の開票は平成 28 年 1 月 8 日に行う予定です。結果は 1 週間以内に本 HP 等でお知らせいたします。当選したすべての候補者は平成 28 年 5 月開催の定時社員総会（仙台）にて選任予定です。

被選挙人名簿

選出区分 2	全国区選出理事：定員 11 名
小田 義直	九州大学医学研究院形態機能病理
伊藤 智雄	神戸大学医学部附属病院病理部
落合 淳志	国立がん研究センター
田中 伸哉	北海道大学医学部腫瘍病理学
森井 英一	大阪大学病態病理学・病理診断科
安井 弥	広島大学大学院分子病理学
坂元 亨宇	慶應義塾大学医学部病理学
深山 正久	東京大学人体病理学・病理診断学
高橋 雅英	名古屋大学医学系研究科分子病理学
八尾 隆史	順天堂大学人体病理病態学
笹野 公伸	東北大学病理診断学・病理部
野口 雅之	筑波大学医学医療系診断病理学
鬼島 宏	弘前大学医学部病理生命科学講座
石川 雄一	がん研究会がん研究所病理部

以上 14 名（記載は届出順、所属は 15 字以内・本人申請）

新役員当選者名簿

1) 選出区分 1 地方区選出理事：8 名

-1 北海道 地区	西川 祐司	旭川医大病理学講座腫瘍病理分野
-2 東北 地区	長沼 廣	仙台市立病院 病理診断科

- 3 関東地区 北川 昌伸  
東京医科歯科大学包括病理学分野
  - 3 関東地区 内藤 善哉  
日本医科大学統御機構診断病理学
  - 4 中部地区 中村 栄男  
名古屋大学医学部附属病院病理部
  - 5 近畿地区 大澤 政彦  
大阪市立大学医学部診断病理学
  - 6 中国四国地区 森谷 卓也  
川崎医科大学 病理学 2
  - 7 九州沖縄地区 鍋島 一樹  
福岡大学医病理学講座・病理部
- 2) 選出区分3 口腔病理部会長兼全国区選出理事：1名  
長塚 仁 岡山大学大学院口腔病理学分野
- 3) 選挙区分4 監事：2名  
黒田 誠 藤田保健衛生大学病理診断科  
白石 泰三 三重大学医学研究科腫瘍病理学

#### 7. 平成 28 年 4 月 1 日付 指導医登録について

標記の希望者について申請受付をいたしますので、病理学会事務局宛その旨ご連絡下さい。

連絡先：日本病理学会事務局 jsp-admin@umin.ac.jp

申請期限：平成 28 年 1 月末日

対象：「更新」を一度以上行った現役病理専門医で、まだ指導医登録をされていない方。

※今秋病理専門医更新手続きを初めて行われた先生、または今秋更新手続きをされた方で未登録の先生には、結果通知の際にご案内いたしますので、こちらのご連絡は不要です。

#### 8. 2016 年度 ハンガリー病理解剖トレーニングコース 参加者募集

近年、日本を含む世界各国で病理解剖数が減少傾向にあり、特に若手病理医が国内で十分な解剖経験を積むことが困難な状況にあります。一方、ハンガリーでは現在も多数の病理解剖が行われています。そこで日本病理学会では、ハンガリー最大の医科大学である Semmelweis 大学と提携し、日本の病理医がハンガリーで短期集中的に病理解剖の経験を積むことができるトレーニングコースを創設しました。

このコースでは、指導教官の下、参加者自らが病理解剖を行い、臓器観察後臨床病理相関をつけ、報告書にまとめるまでの作業を行います。短期間にこれら業務を繰り返すことによって、所見の取り方、病態の理解、報告書作成能力の修得、向上が期待されます。また国際交流としても貴重な経験を得ることができます。

2014 年夏と 2015 年夏にコースを実施し、充実した成果をあげることができました。そこで 2016 年度は以下の要領でコース参加者を募集します。奮ってご応募ください。

#### 募集要項

- 1) 実施期間  
2016 年 8 月 1 日（月）～ 6 日（土）
- 2) 場所  
Semmelweis 大学第二病理学教室  
（ハンガリー ブダペスト）
- 3) コース責任者  
Glasz Tibor  
（Semmelweis 大学第二病理学教室 准教授）
- 4) コース内容  
Semmelweis 大学第二病理学教室のスタッフの指導の下で実際に病理解剖を行い、解剖報告書（英語）を作成する。解剖数は 1 日 2 件、コース全体で 10 件を予定している（最初の 1 件は見学となる）。
- 5) 応募資格  
日本病理学会会員で、病理解剖を集中して学びたい医師及び歯科医師。  
病理専門医あるいは死体解剖資格の有無は問わないが、日本での病理解剖の経験が 10～20 体程度あることが望ましい。
- 6) 費用  
コース受講費用として一人 45 万円（通貨レート的大幅な変動があった場合は変更される場合がある）  
その他、現地への渡航費及び滞在費は自己負担（可能であれば所属機関の負担）となる（20～30 万円程度の見込み）
- 7) 募集人数  
若干名
- 8) 応募期限  
2016 年 1 月 31 日（日）必着
- 9) 応募方法  
申込用紙（別紙）を病理学会ホームページよりダウンロードし、  
<http://pathology.or.jp/news/hungary-2016.docx>  
必要事項を記入の上、日本病理学会事務局までメールすること。  
jsp-admin@umin.ac.jp
- 10) 選考  
日本病理学会海外研修委員会で選考する。なお、応募者多数の場合は、病理専門医試験受験前の方を優先することがある。  
選考結果は 2016 年 4 月までに申込者本人へ通知する。
- 11) 参加者の提出書類  
選考の結果、コースに参加することが確定した者は、別途連絡する期日までに下記書類を日本病理学会事務局へ提出（郵送）すること。  
(a) パスポート（顔写真のあるページ）の写し  
(b) 大学及び大学院（博士号を取得している場合）の卒業証明書（英文）

- (c) 医師（歯科医師）免許証（和文）の写し
- (d) 参加者が医師免許を有することを証明する文書（英文）（書式自由）
- (e) 参加者の予防接種歴の有無と抗体価の証明書（英文）（書式自由）

※(d) 及び (e) には所属する部署の責任者（教授や部長等）のサインが必要である。なお、(c) の代わりに厚生労働省の発行する英文の医師または歯科医師の免許証を提出する場合は、(d) は不要である。(e) については参加者の所属する医療機関で診療にあたり必要とされている予防接種の項目（麻疹や HBV 等）について記載すること。

12) 申込後のキャンセルについて

申込後、コースへの参加が困難になった場合は日本病理学会事務局へ速やかに連絡すること。但し選考を経て受講が正式に決定した後に参加を辞退する場合、他の参加予定者にも影響が出る場合があるので、選考終了後の参加辞退はできる限り避けること。コース開始日から起算し 10 週間前（2016 年 5 月 23 日）を過ぎてコースへの参加をキャンセルする場合は、コース受講費用の全額をキャンセル料として負担すること。

13) その他

コース修了者には Semmelweis 大学より受講証が交付される。受講証の写しを病理専門医試験受験申請時に提出することで、病理専門医試験受験に必要な病理解剖経験数のうち 5 体に充てることができる。

問い合わせ先

日本病理学会事務局  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階  
TEL 03-6206-9070 FAX 03-6206-9077  
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

9. 新専門医制度における「専門研修プログラム」申請受付開始について

新専門医制度における、「病理専門研修プログラム」の申請受付が開始されました。基幹施設へ申請予定のプログラム責任者におかれては、必ず下記 HP を参照の上、ご準備をよろしくお願いいたします。

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/senmoni/newsystem/post-3.html>

1. 専門研修プログラム事前審査締切（日本病理学会宛）  
2015 年 12 月 1 日～2016 年 1 月末日 必着
2. 専門研修プログラム最終提出締切  
（日本専門医機構 病理領域研修委員会宛）  
事前審査終了時～2016 年 3 月末日 必着

10. 新学術評議員の推薦について

学術評議員におかれては、標記の件につきまして、下記資格に照らし合わせて適当と思われる会員がいましたら、ご推薦をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

各位よりご推薦のありました候補者につきましては、資格審査委員会による審査を経て、理事会にて審議します。認められた候補者は来る定時社員総会（第 105 回総会・仙台）に諮られ承認を受けることになります。

学術評議員資格

病理研究歴満 7 年以上、会員歴 5 年以上の会員で以下の条件の一つを満たす者。尚、病理研究歴に、初期臨床研修期間は含めることができませんので注意してください。

- A. 病理学（学際分野を含む）に関する原著論文 3 編以上で、少なくとも 1 編の筆頭著者である者
- B. 病理専門医あるいは口腔病理専門医資格取得者で論文発表の筆頭著者 1 編以上である者
- C. 入会歴 5 年以上を満たさないが、傑出した業績を上げていると資格審査委員会で認められた者

- 注：1) 論文は和文・英文を問わない。但し、査読のある雑誌への掲載論文であること。  
2) 病理専門医あるいは口腔病理専門医の論文は症例報告を含む。  
3) 著書については、5 編以内、別刷（コピー可）を提出すること。

提出書類

1. 学術評議員申請書/推薦書式（本学会ホームページよりダウンロード）  
<http://pathology.or.jp/news/H28gakuhyou.doc>  
※学術評議員である推薦者 2 名の直筆署名があること。  
※功労会員・名誉会員・一般会員は推薦者になれません。
2. 代表的な自著論文の別刷りのコピー 5 編以内。  
※上記 ABC の資格のうち、候補者が必要とされる業績をみたしていることが証明できる分を提出すること。  
※内 1 編は筆頭著者の論文であること。

受付期限 平成 28 年 1 月 31 日（消印有効）

提出先・問合せ先

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階  
一般社団法人日本病理学会 学術評議員推薦受付係  
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp TEL: 03-6206-9070

参照 HP

<http://pathology.or.jp/news/28.html>

## 11. 学術研究賞演説 (A 演説), B 演説について (公募のお知らせ)

平成 28 年秋開催予定の第 62 回日本病理学会秋期特別総会における学術研究賞演説 (A 演説) と B 演説の募集をいたします。

これら演説の応募内容は、以下の要件を満たすことといたします。

### 学術研究賞演説 (A 演説)

- (1) 優れており、かつ蓄積された研究であること。
- (2) 原則として日本国内で行われた研究であること。
- (3) 内容に関する責任の明確な研究者による発表で、内容は共同研究によるものであっても発表者自身はそれを代表するものであること、従って単独名が望ましい。

### B 演説

- (1) 症例報告または症例の蓄積による解析。

### 学術研究賞演説 (A 演説) の応募要領

- (1) 応募資格：日本病理学会員でありかつ学術評議員による推薦を受けた者。ただし、応募者自身が学術評議員である場合、自薦で可とする。
- (2) 提出書類：
  - ・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録 (900 字以内) などを記載し、推薦学術評議員の自署・捺印を受けてください。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局までご請求ください。  
[http://pathology.or.jp/news/word/abh27advertiseA\\_20151204.doc](http://pathology.or.jp/news/word/abh27advertiseA_20151204.doc)
  - ・講演内容に直接関係のある自著論文 20 編以内の一覧。
  - ・代表的な自著論文 5 編以内の別刷各 3 部 (コピー可)。
- (3) 提出先：〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階 日本病理学会事務局「学術研究賞演説 (A 演説) 応募抄録」と表記し、書留郵便等により郵送してください。
- (4) 募集締切：平成 28 年 1 月 31 日 (消印有効)
- (5) 参照：  
<http://pathology.or.jp/news/whats/abh27advertiseB-20151204.html>

### B 演説の応募要領

- (1) 応募資格：学術研究賞演説 (A 演説) に同じ。
- (2) 提出書類：  
日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録 (900 字以内) などを記載し、推薦学術評議員の自署・捺印を受けてください。ダウンロー

ドできない場合は、日本病理学会事務局までご請求ください。

[http://pathology.or.jp/news/word/abh27advertiseB\\_20151204.doc](http://pathology.or.jp/news/word/abh27advertiseB_20151204.doc)  
・講演内容に関係のある自著論文があればその一覧 (5 編以内)。

- (3) 提出先：学術研究賞演説 (A 演説) に同じ。「B 演説応募抄録」と表記し、書留郵便等により郵送してください。
- (4) 募集締切・参照 HP：学術研究賞演説 (A 演説) に同じ。

## 12. 平成 27 年度学術奨励賞受賞候補者の推薦について

学術奨励賞は、病理学の基礎的研究あるいは診断業務の中で特に優れた学術的貢献を行った本学会若手会員に対して与えられる賞です。受賞対象者は、年度末 (平成 28 年 3 月 31 日) において 3 年以上の会員歴を持つ 40 歳以下の会員です。

学術評議員各位には、下記の要領で候補者の推薦をお願いいたします。

### 推薦要領

1. 本年度は、数名への授与を予定しています。
2. 募集締切り期日は、平成 28 年 1 月 31 日 (消印有効) とします。
3. 候補者の推薦にあたっては、日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式をご利用の上、書留郵便にて日本病理学会事務局までご送付ください。ダウンロードできない場合には本学会事務局までご請求ください。  
<http://pathology.or.jp/news/whats/youngawardh27advertise.html>
4. 学術奨励賞受賞者 (受賞者) には、賞状と記念品が贈呈されます。
5. 賞の授与は、次年度の総会において理事長が行います。
6. 受賞者には、第 105 回仙台総会で開催の英語セッション「学術奨励賞受賞講演」(平成 28 年 5 月、於仙台国際センター) において英語で口演していただきます。
7. 上記 6 の優秀者は平成 29 年度英国病理学会口演発表派遣候補者 (本学会より渡航費補助金 15 万円支給) となります。

### 13. 平成 27 年度日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞公募について

概要:

日本病理学会 100 周年記念事業として、2011 年から 5 年間に渡り、病理学研究新人賞を設定し、若手医師の大学院生を鼓舞することとした。選考は書面による 1 次審査(8 名以内)と、第 105 回仙台総会における口頭発表による 2 次審査を行い、5 名を選出する。同定時社員総会で表彰し、賞金 10 万円を付与する。

対象: 以下のすべての要件を満たす者を本賞応募の対象者とする。

- 1) 日本の大学の医学部・歯学部大学院病理学教室(あるいはそれに相当する教室)博士課程に所属する学生であること(応募時)。
- 2) 応募翌年度の 4 月 1 日において、35 才以下であること。  
(平成 27 年度対象者: 昭和 55 年 4 月 2 日以降生まれ)
- 3) 日本の医師免許あるいは歯科医師免許を有する者。ただし、日本の大学の MD/PhD コースの学生で博士課程に所属する者は応募可能とする。
- 4) 1 年間以上、日本病理学会の会員である者。(今年度の入会者は該当しません)

提出書類: すべて A4 の大きさの紙媒体で提出のこと。

- 1) 履歴書(高校卒業以降、生年月日・連絡先を含めること)
- 2) 業績録(著者名をすべて記載し、代表論文 3 編までに関して、要旨を含むページのコピー 1 枚ずつを提出)
- 3) 本人自身の研究業績の要約(1 枚、必ずタイトルをつけること)
- 4) 所属講座の教授(あるいは指導教官)の推薦書(1 枚)
- 5) 大学院在籍証明書(コピー可)
- 6) 医師免許証のコピー(MD/PhD コースの学生は不要)
- 7) 受賞した場合、受賞後 2 年以内に本学会学会誌 Pathology International へ投稿を行うという誓約書(形式自由; 原著あるいは総説で共著可)。

なお、受賞後、応募時提出内容に虚偽があることが判明した場合、後日審議の上、受賞の取り消しならびに賞金の返還を求めることがある。

提出先: 簡易書留などで送付のこと

締切 平成 28 年 2 月 1 日(月) 必着。

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階  
日本病理学会事務局 研究新人賞受付係

電話: 03-6206-9070

電子メール: jsp-admin@umin.ac.jp

詳細: 日本病理学会ホームページ 12/1 付記事を参照のこと

<http://pathology.or.jp/jigyou/100syuunen/rookie-award-141201.html>

### 14. 肺癌 EGFR 遺伝子変異検査の検査精度に関する調査研究への参加協力をお願い

この度、日本病理学会・精度管理委員会では 2015 年度の活動の一環と致しまして、「体細胞遺伝子検査の検査精度に関する調査研究: 肺癌 EGFR 遺伝子変異検査」を実施することとなりました。本調査に参加協力頂けます医療機関の先生方は本学会ホームページをご参照の上、お申し込みくださいますようお願い申し上げます。なお調査結果は病理学会ホームページにて公開いたします。

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/whats/enquete-151215.html>

### 15. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

栗林 宣雄 功労会員 (平成 27 年 8 月 29 日ご逝去)  
後藤壽美子 功労会員 (平成 27 年 9 月 17 日ご逝去)  
白井 智之 功労会員 (平成 27 年 11 月 19 日ご逝去)

## お知らせ

### 1. 第 47 回(平成 28 年度)公益財団法人三菱財団自然科学研究助成について

募集期間: 平成 28 年 1 月 5 日から 2 月 2 日

参照 HP: <http://www.mitsubishi-zaidan.jp/support/>

お問合せ: (公財)三菱財団事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-3-1

三菱商事ビルディング 21 階

TEL 03-3214-5754 FAX 03-3215-7168

E-mail [info@mitsubishi-zaidan.jp](mailto:info@mitsubishi-zaidan.jp)

### 2. 第 41 回内藤コンファレンス ポスター発表者募集

テーマ: Cancer Heterogeneity and Plasticity: Relevance to Therapeutic Resistance

「がんの多様性・可塑性と治療抵抗性」

開催日: 2016 年 7 月 5 日(火)~8 日(金)

場所: シャトラーゼ ガトーキングダム サッポロ  
(北海道札幌市)

ポスター演題募集期間: 2015 年 12 月 1 日(火)~

2016 年 1 月 12 日(火) 正午締切

参照 HP: <http://naito.umin.jp/>

3. 環境省主催 平成 27 年度「中皮腫の診断精度向上のための講習会」及び「石綿肺等の診断精度向上のための読影講習会」のおしらせ

指定疾病を取り扱うことの多い医療機関等の医療従事者を対象に、石綿関連疾患の診断等について以下の講習会が開催されます。

(1) 広島会場

名 称：平成 27 年度 中皮腫の診断精度向上のための講習会  
～石綿による健康被害者の救済促進のために～

定 員：各 60～80 名程度（最大 100 名）

開催日時：平成 28 年 1 月 11 日（月・祝）  
9 時 30 分～ 18 時

会 場：サテライトキャンパスひろしま（広島市）  
募集対象：広島会場：中国地方（広島県，山口県，岡山県，鳥取県，島根県）の医療機関に勤務する臨床医，病理医，臨床検査技師，細胞検査士等

形 式：事前登録に基づく自由参加方式。参加費無料。  
講演会はスクール形式。検鏡実習を含む。

(2) 同講習会 静岡会場

開催日時：平成 28 年 1 月 17 日（日）  
9 時 30 分～ 18 時

会 場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」（静岡市）

募集対象：静岡県及び近隣地域（神奈川県，山梨県，愛知県），の医療機関に勤務する臨床医，病理医，臨床検査技師，細胞検査士等

(3) 大阪会場

名 称：平成 27 年度 石綿肺等の診断精度向上のための読影講習会  
～石綿による健康被害者の救済促進のために～

開催日時：平成 27 年 1 月 31 日（日）  
13 時 30 分～ 18 時 30 分

会 場：大阪府立男女共同参画・青少年センター「ドーンセンター」（大阪市）

募集対象：近畿地方（大阪府，兵庫県，京都府，奈良県，滋賀県，三重県，和歌山県）の医療機関に勤務し，石綿関連疾患の診断等に携わることがある医師等

定 員：30～40 名程度（最大 50 名）。

形 式：事前登録に基づく自由参加方式。参加費無料。

講演会はスクール形式。読影実習を含む。

お問い合わせ

環境省石綿健康被害対策室 担当：大神

TEL：03-5521-6552 FAX：03-5510-0122

E-mail：TAKURO\_OGAMI@env.go.jp

申し込み参照 HP：<http://www.erca.go.jp/asbestos/>